

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	論理国語	3	A	2

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的, 批判的に考える力を伸ばすとともに, 創造的に考える力を養い, 他者との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに, 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ, 我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め, 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価方法	課題確認テスト、定期考査、課題テスト、小テスト、課題など	課題、課題確認テスト、定期考査、小テスト、プレゼンテーションなど	課題、授業準備、授業態度、レポート、小テスト、やり直し、プレゼンテーション、ノート提出など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1時代をひらく 「最初のペンギン」茂木健一郎 「豊かさとは生物多様性」本川達雄 [書く]短い論文を書いて読み合おう 3科学と人間 「鏡としてのアンドロイド」石黒浩 「ロボットが隣人になるとき」野矢茂樹
2学期	4豊かな認識 「言葉は『ものの名前』ではない」内田樹 「科学的『発見』とは」小川眞里子 [書く]資料を活用して論述しよう 5知のゆくえ 「知識における作者性と構造的性」吉見俊哉 「もう一つの知性」姜尚中
3学期	6明日をみつめて 「ホンモノのおカネの作り方」岩井克人 「未来のありか」若林幹夫

■何で学ぶか(教材)

教科書:「新編論理国語」東京書籍  
副教材:「新編論理国語 学習課題ノート」東京書籍  
「常用漢字クリア」尚文出版

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

- ①筆者の主張を的確に捉える
  - ・接続詞に注意して、文章の構造を捉える。(対比など)
  - ・本文に書き込みをする。(キーワードや重要な文には線を引く)
- ②自分の意見を持つ
  - ・本文を読み、筆者の主張に対する自分の考えを明らかにする。
- ③小論文が書けるようになる
  - ・入試に必要な人も出てきます。文章を書く練習をする。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
国語	国語表現	3	A	3

■目標

実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにするとともに、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。さらに、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	学校生活や身近な社会生活における様々な関わりを含みながらも、社会人として活躍していく高校生が、他者と関わる現実の社会において必要な国語の知識や技能について理解し、それを適切に使うことができるようにする。	状況や場面に応じた他者との関わりの中で、必要な事柄を正確に伝え、相手の意向を的確に捉えて解釈したり、効果的に表現したりすることができるようにする。	言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることを目指し、現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心をもち、生涯にわたる読書習慣の基礎を築き、社会人として、考えやものの見方を豊かにする。
評価方法	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーションなど	定期考査、課題、小テスト、小論文、プレゼンテーション、授業準備、授業態度など
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	・小論文・レポート入門 レッスン1 小論文とは何か レッスン2 反論を想定して書く レッスン3 文章を読み取って書く レッスン4 統計資料を読み取って書く レッスン5 発想を広げて書く レッスン6 レポートを書く レッスン7 論文を書くために
2学期	・自己PRと面接 レッスン1 自分を見つめて レッスン2 効果的な自己PR レッスン3 将来の自分を考えよう レッスン4 志望理由を書こう レッスン5 自己推薦書や学修計画書を書く レッスン6 面接にチャレンジ レッスン7 グループディスカッションをしよう
3学期	・メディアを駆使する レッスン1 通信文を書き分ける レッスン2 電話を使いこなす レッスン3 電子メールを活用しよう レッスン4 ネット社会との付き合い方 レッスン5 ネットを活用した情報収集 レッスン6 メディアと情報 ・会話・議論・発表

■何で学ぶか(教材)

教科書『国語表現』(大修館国表701)  
 準拠ノート『基礎練習ノート 国語表現』

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

教科書と準拠ノートで基本的な要素を学びつつ、小論文を書いたりプレゼンテーションをしたりする機会を多く設定し、生徒間で相互評価を行う。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
地理歴史	歴史総合	3	A	3

■目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるように指導する。また、近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを効果的に説明したりする力を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史と繋がっていることを理解する。 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、自分の考えを表現することができる。 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現できる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚する。
評価方法	定期考査、レポート(ワークシート) 準拠ノート、授業プリント	定期考査、レポート(ワークシート) 準拠ノート、授業プリント	授業活動、レポート(ワークシート) 準拠ノート、授業プリント
割合	30%	40%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成 第4章 帝国主義の時代
2学期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦  第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化
3学期	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化(継続) 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界

■何で学ぶか(教材)

教科書:「歴史総合」(実教出版)  
副教材:「歴史総合ワークノート」(実教出版)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

単元・章・節ごとに提示される学習課題について、教科書に記載されている本文や資料群等を活用し、個人またはグループを通して、課題へのアプローチをしていく。また、内容をさらに深めるために、タブレットPCを利用して教科書のQRコード動画や画像などを活用していく。  
上述のような学習活動と並行して、1テーマごとに該当する準拠ノート(作業含む)をまとめることで、授業内容の定着を目指していく。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
公民	政治・経済	3	A	2

■目標

社会の在り方にかかわる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方にかかわる情報を適切かつ桜花的に調べまとめる技能を身に着けるようにする。

また、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念を通して、現実社会にみられる複雑な課題を把握し、説明する。それとともに、身に付けた判断基準を根拠に、妥当性や効果、実現可能性などを議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	政治と法の意義と機能, 基本的人権の保障と法の支配, 権利と義務, 議会制民主主義, 地方自治について, 現実社会の諸事象を通して理解を深める。 また国際社会の変遷, 人権, 領土などに関する国際法の意義, 国際連合をはじめとする国際機構の役割, 安全保障と防衛, 国際貢献について, 現実社会の諸事象を通して理解を深める。	民主政治の本質を基に, 日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し, 表現する。 また国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に, 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察し, 表現する。	よりよい社会の実現を視野に, 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される, 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。公共的な空間に生き国民主権を担う公民として, 日本ならびに各国の主権を尊重し, 平和と繁栄を図ることの自覚を深める。
評価方法	定期考査(知識分野) 準拠ノート整理(知識分野)	定期考査(思考・判断分野) 準拠ノート整理(思考・判断分野) 小論文(600字程度)	課題の提出状況 小論文(600字程度) 授業の出席状況
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	第1部 現代日本の政治・経済(重要用語) 第2部 現代の国際政治・経済(重要用語) 第1部 現代日本の政治・経済(正誤問題・判断) 第1編 現代日本の政治
2学期	第2編 現代日本の経済 第3編 現代日本における諸課題の探究 第2部 現代の国際政治・経済(正誤問題・判断) 第1編 現代の国際政治
3学期	第2編 現代の国際経済 第3編 国際社会における諸課題の探究 「政治・経済」の学習を振り返ってみよう

■何で学ぶか(教材)

教科書『最新政治・経済』(実教出版政経703) 準拠ノート『最新政治・経済 演習ノート』 DVD『映像の世紀』(NHKエンタープライズ)
--

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

単に説明を聞き、考え方を暗記することで機械的に問題を解くのではなく、新聞などのデータを分析・整理して問題の本質を理解し、適切に判断する力や、周囲と協働できる力、更には社会参画を視野に入れた公民として必要なスキルを身に付けること。  
またタブレットを利用して、教材にはない資料や記事等を紹介して考察をさせたりすることで、理解を深める。  
コの字型の一斉授業ならびに3~4人のグループによる考察を深める作業を行う。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
数学	数学Ⅱ	3	A	4

■目標

- 1 基礎問題の復習・演習を行い、基本的な知識を身に付ける。
- 2 指数関数・対数関数、微分法と積分法の考え方を理解し、基礎的な知識を習得する。
- 3 事象を数学的に考察し処理する能力を身につけ、それらを活用するようになる。
- 4 数学的な見方や考え方の良さを知る。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習内容を理解する。</li> <li>①教科書の各単元の基本例題、練習問題を解き、その解法を理解する。</li> <li>②公式を理解する。</li> <li>③公式や技法を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●応用例題や発展問題などを考察したり、解法を理解したりする。</li> <li>①応用問題と向き合い、根気強く解法を理解する。</li> <li>②習得した技法や解法を応用し問題解決に取り組む</li> <li>③答案として洗練された表現を表出したり、独自の別解を編み出したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題を解き、提出期限を守る。</li> <li>●授業中、授業プリントにしっかり取り組む。</li> <li>●授業時の発問に対し自分の意見を述べ、指示された活動を積極的に行う。</li> <li>●集中力して授業に取り組む。</li> </ul>
評価方法	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題 授業プリント、自己評価(振り返りシート)	課題確認テスト、定期考査 課題テスト、小テスト、課題 授業プリント、自己評価(振り返りシート)	課題、授業準備、授業プリント、 訂正ノート、自己評価(振り返りシート)
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	復習 数の計算・式の計算、因数分解、約数と倍数、平方根の計算、式の値・比例式、 1次方程式、連立方程式、2次方程式、不等式、 数と量の文章問題、割合の文章問題、 速さの文章問題、規則性などの文章問題、 1次関数とグラフ、2次関数とグラフ、
2学期	図形と角、合同な図形、相似な図形、円、 図形の面積、三平方の定理の利用、 立体の体積と表面積、三角比、場合の数、 確率、データの分析 (数学Ⅱ) 5章 微分法と積分法 1節 微分係数と導関数 2節 微分法の応用
3学期	3節 積分法

■何で学ぶか(教材)

教材 教科書 新編数学Ⅱ 補助教材 Study-Up ノート数学Ⅱ 基本ワーク 課題プリント 授業プリント スタディサプリ
---

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

授業の方法・学び方 1 始業前に学習準備をする 2 (状況に応じて) 小テストまたはスタディサプリを解く 3 授業活動を行う ケース1 ①教師による例題等の解説 ②板書書写と内容理解 ③練習問題を解く。 ④公式や解法の理解が深化する。 ケース2 ①発展問題を各グループに提示する。 ②グループ内で切磋琢磨し、解法を導く。 ※必要に応じて教師の助言や他グループの考察を取り入れる。 ③解法を発表し、クラスで吟味する。 ④学んだ内容を確認しまとめる。
---

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
理科	生物基礎	3	A	2

■目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うこと。
評価方法	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	確認テスト、定期考査、小テスト、課題、観察・実験	課題、レポート、考査のやり直し、プレゼンテーション、自己評価
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き
2学期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第4章 生物の多様性と生態系
3学期	第4章 生物の多様性と生態系 1.植生と遷移 2.生態系とその保全

■何で学ぶか(教材)

・教科書:高等学校 改訂 新生物基礎(第一学習社)  
・補助教材:改定 標準セミナーノート生物基礎

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

授業内では、映像教材や画像・音声のデータなどを用いて、学習内容と社会との関わりを深く理解できるよう工夫する。  
また、身近な生物や生物現象に関係する社会問題等を調べ発表しあうことにより、これからの社会で生きていく現代人として必要な教養と道徳心、自然環境保全に対する態度等を養う。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
保健体育	体育	3	全	2

■目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続できるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
評価方法	技術・技能テスト	グループノートの活用 段階別練習方法の工夫と実践	グループ活動の実践 用具準備・片付け活動 審判等の係活動実践
割合	40%	30%	30%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	1 体づくり運動 2 ダンス(現代的なリズムダンス) 3 選択Ⅰ【球技・武道】 (球技:ソフトボール・サッカー・バスケット・バレー) (武道:柔道) 4 体育理論
2学期	1 選択Ⅰ【球技・武道】 (球技:ソフトボール・サッカー・バスケット・バレー) (武道:柔道) 2 陸上競技(長距離走) 3 選択Ⅱ【球技・武道】 (球技:サッカー・バスケット・バレー・バドミントン・卓球) (武道:柔道) 4 体育理論
3学期	1 選択Ⅱ【球技・武道】 (球技:サッカー・バスケット・バレー・バドミントン・卓球) (武道:柔道) 2 体育理論

■何で学ぶか(教材)

現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート
-------------------------

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

<p>&lt;授業の方法&gt;</p> <p>各単元の特性と魅力を理解させ、基本的技能の向上の方法について、模範演技などを行いながら段階別練習法などを提示する。また、特性に応じたグループ編成を行い、生徒同士が主体的に活動できる場を提供する。</p> <p>&lt;学び方&gt;</p> <p>各単元における特性や技能上達及び安全管理の方法について説明を聞き、基本的な技能の向上を目指すだけでなく、他者を認め、個の特性を生かした表現方法を工夫しながら、積極的に活動に参加する態度を身に付けること。</p>
---

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
英語	English Communication II	3	A	4

■目標

- 短めの対話やアナウンス、事物に関する紹介を聞いて、情報の概要を聞き取ることができる。(聞くこと)
- 事物に関する紹介や対話、簡単な図や掲示物、説明文や物語等を読み、情報の概要を理解することができる。(読むこと)
- 読んだり聞いたりした内容について、簡単な英語を使い自分の意見を言うことができる。(話すこと)
- 日常生活での話題について、ある程度まとまりのある文章を簡単な英語を使い書くことができる。(書くこと)

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	各 Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語(句)や Grammar、Interaction 等の言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したり、書いたりする技能を身に付けている。	質問の意図を理解し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり、書いたりできる。	身近なテーマに関する設定を理解し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現しようとしている。
評価方法	授業、定期考査、課題考査、小テスト、課題	授業(発表を含む)、定期考査、課題考査、小テスト	授業(発表を含む)、課題、小テスト
割合	30%	30%	40%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	LESSON 5 From Landmine to Herbs LESSON 6 Mural – The Power of Public Art
2学期	LESSON 7 “Englises” in the World LESSON 8 Deepika Kurup – The Science Behind Clean Water LESSON 9 The World’s Poorest President
3学期	LESSON 10 Living in an E-Society – The Pros and Cons

■何で学ぶか(教材)

MY WAY English Communication II 総合英語 MY WAY Data Base 1700 使える英単語・熟語 [3rd Edition] Zoom English Grammar 27 Lessons THIRD EDITION
---

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

高2の授業と同じ教科書で、継続して学ぶ。学んだ内容を元に、支援を受けながら Speaking、Writing、Reading、Listening の四技能を統合的に学ぶ。単語調べ等の最低限の予習はやってもらうこと。授業中の言語活動への積極的な参加を求める。英単語は Data Base を用いて小テストを週1回実施する。授業の終わりに毎回ファイルを提出すること。(平常点に加味します。)
---

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
商業	簿記	3	A	3

■目標

企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の仕組みについて、理解させるとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。  
自ら学び、理解し、関連する技術を身に付ける。  
全商簿記検定試験2級合格・理解が進んだ生徒は日商簿記検定試験3級合格を目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	資産・負債・純資産・収益・費用の分類・簿記の流れを学習し習得する。 株式会社の簿記を学習する。 より、実務に近い業務の処理を学ぶ。	簿記の流れを理解し、問題集の演習問題に自身の力で取り組めるようになる。	課題に最後まで取り組み、提出期日を守り提出することができる。提出後、不備を指摘された場合はきちんと訂正し再提出する。  スタディサプリを活用することができる。 (理解が進んだ生徒は、日商簿記検定に取り組む)
評価方法	課題確認テスト、定期考査、検定試験 課題テスト、小テスト、課題	課題確認テスト、定期考査、検定試験 課題テスト、小テスト、課題	課題、授業準備、レポート、やり直し 自己評価
割合	45%	30%	25%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	決算整理その2 伝票の集計 各種取引の処理・特殊な取引 本支店会計 株式会社の簿記  6月全商簿記実務検定試験3級または2級受験
2学期	1学期に引き続き ・全商2級の内容を学習 ・理解が進んだ生徒(2級合格者)はスタディサプリを利用して日商3級の内容に取り組む
3学期	理解度に応じて問題演習に取り組む  1月全商簿記実務検定試験3級または2級受験 (希望者)

■何で学ぶか(教材)

教科書:新簿記(実教出版)  
補助教材:標準検定簿記2級問題集(東京法令出版)  
スタディサプリ:全商・日商簿記講座(資格対策講座)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

専門用語を理解し、簿記のしくみを習得する。  
真面目に授業に取り組み、問題に取り組む。  
理解が難しい問題は、授業中や休み時間を利用して先生や理解できている友達に質問し、確実に理解できるようにしましょう。

令和8年度 長崎県立大崎高等学校 授業シラバス

教科	科目	学年	コース	単位数
商業	情報処理	3	A	4

■目標

情報機器の活用に関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について学習するとともに、情報を適切に収集、処理し活用する能力態度等を学習していく。  
 全商ビジネス文書実務検定試験各級合格を目指す。  
 全商情報処理検定3級合格を目指す。  
 全商ビジネス計算実務検定各級合格を目指す。

■どのような力をどのレベルまで身につけさせるのか(目指す能力とその次元)

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得させたい基準	情報機器についての知識・その取り扱い方。 表計算Excelについての知識・その取り扱い方。 全商情報処理検定3級の合格 ワープロソフトについての知識・その取り扱い方。 全商ビジネス文書実務検定試験合格	各内容に応じた検定試験に取り組む。 全商ビジネス計算実務検定試験に取り組むことで、思考・判断・表現能力の育成をする。 最低3級のビジネス計算は理解する。	授業へ意欲的に参加し、課題等に最後まで取り組み、提出期日を守り提出することができる。提出後、不備を指摘された場合はきちんと訂正し再提出する。  (技能が高まった生徒は、全商ビジネス文書実務検定上級・全商ビジネス計算実務検定上級に取り組む)
評価方法	課題確認テスト、定期考査、検定試験 課題テスト、小テスト、課題	課題確認テスト、定期考査、検定試験 課題テスト、小テスト、課題	課題、授業準備、レポート、やり直し 自己評価
割合	45%	30%	25%

■いつ、何を学ぶか(学習内容)

学期	学習内容
1学期	2年からの引き続きでビジネス計算学習 6月全商全商ビジネス計算実務検定試験3級または2級受験 7月全商ビジネス文書実務検定試験3級受験  表計算ソフトの活用について学習
2学期	9月全商情報処理検定試験3級受験  全商ビジネス文書実務検定試験各級を学習 11月全商ビジネス文書実務検定試験各級受験  表計算ソフトの活用について学習
3学期	表計算ソフトの活用について学習

■何で学ぶか(教材)

教科書:情報処理 新訂版(東京法令出版)  
 補助教材:全商情報処理検定模擬問題集3級(実教出版)

■どのように学ぶか(授業の方法/学び方)

専門用語を理解し、各ソフトの取り扱い方を習得する。反復演習も多くなるが、授業をしっかりと聞き、課題に取り組む。理解が難しい問題は質問するなどして必ず理解できるようにする。  
 また、検定試験合格を目標に、演習を重ねるとさらに知識や技術が身に付く。